

会報

第37号 (2016/12/6)

広島県福山市木之庄町 4-3-14

Tel&Fax:084-917-5937

Mail:info@crcc-fukuyama.org



Community Renaissance
Research Center

今後の予定

12月15日(木) 10時〜

干支正月飾りづくり

・講師：桑田喜代美さん

・場所：ルネッサンス研究所集会室

・参加費：500円（おやつ、材料費込み）

当法人で干支飾りづくりを始めから、今年で3年目になりました。毎回地域の絆の利用者さんと可愛い干支飾りを作っています。

地域の方、親子連れのご参加も大歓迎です。

難しい作業はありません。簡単で、可愛い正月飾りが出来上がります。お楽しみに…。

12月25日(日) 10時〜13時半頃

仁伍もちつき

場所：仁伍広場（ルネッサンス事務所前）

当日は、餅つきや出店などがあります。

・当法人出店内容：おでん・正月干支飾り販売・子ども向けゲーム・リサイクルバザー

・お願い：前日13時よりのおでん仕込みや、当日のお手伝いを頂ける方、「ご連絡下さい。」



「コミュニティルネッサンス」

1月14日(土) 10時〜13時半頃

「野菜を食べていきいき元気」

・講師：加納三千子（福山市立女子短期大学 名誉教授）

名譽教授

・場所：ルネッサンス研究所集会室

・参加費：500円

野菜を食べると自分の心や体がどのように喜ぶのか、何故そうなるのか。近年明らかにさつつある腸内細菌達と共につくる免疫の仕組みを考えてみませんか。昼食もご用意致します。

2月中旬 10時〜13時半頃

味噌作り

・講師：藤原スエ子さん

・場所：ルネッサンス研究所集会室

・参加費：500円（豚汁付き、味噌持ち帰りなし）



1400円（味噌約500g持ち帰り頂けます。さらに+500円で容器付きになります。もしくは容器ご持参下さい。）

今年も恒例の味噌作りの季節になりました。

今年のご希望により、みんなで作った味噌をお持ち帰りしていただき、「ご自宅で、味噌が発酵する様子を楽しんで頂けるように致しました。ひと夏越えたぐらいからお好みでお召し上がりいただけます。

お屋は昨年のお味噌で作った豚汁を味わって頂きます。

「コミュニティルネッサンス研究所」って何してるの？

設立目的は、「高齢者が自立した生活を持續できるような地域コミュニティの実現のために、ヒトやモノなどの地域資源の活用やその方法の揭示、情報提供などの事業を行い、誰でもが安心して住み続けられる地域社会の再生に寄与すること」。具体的には、これまで高齢者の方が生活の中で培ってきた知恵や特技を出し合い利用できる場を提供することです。この場に関わることで高齢者の方は「こころ」と「からだ」を動かすことにより「生きがい」を持って人生を大いに楽しむと同時に地域づくりにも関わって欲しいと願っております。これまで当法人では、いままでの社会での経験や専門知識を活かした都市農業などの講座を開催したり、日常の生活の中で培ってきた経験を活かした味噌づくりや小物づくり、また地域のまつりに出店したりしてきました。安心して住み続けられる社会を皆さまと一緒に作っていききたいと思っております。

お一人で新規でのご参加も、お友達と一緒に子ども連れも大歓迎です。是非一度遊びに来て下さい！

問い合わせ・申込先

NPO法人コミュニティルネッサンス研究所
電話・FAX：084-917-5937
メール：info@crcc-fukuyama.org

仁伍音楽祭



お天気にも恵まれた11月23日(水)、朝10時から仁伍音楽祭が始まりました。責任者の方、利用者さんのご挨拶が終わると、いよいよ「仁伍ニコニコ合唱団」の発表。今回も沢山の利用者さんにステージが上がっていただき、それだけでも、やってきてよかったなあと感じました。そして、伴奏が始まると、最初は声が揃いにくかったものの、徐々に声が揃い音量も上がってきました。さびの部分などは皆さんかなり大きな声で歌われていました。

あとで、グループホームではいつもほとんどお話をされず、歌にも関心を示されない方が当日ステージ上で歌われていた事を聞きました。職員さん達がそれに感動していたと聞き、ルネッサンスで練習をしてきた甲斐があったのであればと、非常に嬉しく感じました。

ただ、当日はいろいろな行事が重なったためか、聞いていただくお客様が少なかつたのは残念でした。講師の村山先生、藤原さん、地域の絆の職員さんはじめ、ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

当日ルネッサンスからはいつものようにリサイクルバザーと手作り味噌の販売、子どもさん向けの魚釣りや輪投げを実施しました。遠藤さん、三浦さん、原田さんご協力ありがとうございました。



ポーセラーツ講座



11月2日(水)に地域の絆の利用者さん向けにポーセラーツを作る会を開催しました。利用者さん向けのポーセラーツ講座は今回初めて、マイマグカップを作り挑戦しました。

参加者は利用者さん4名+職員さん2名でした。少人数でしたが、とてもアットホームで楽しい会となりました。ポーセラーツは、絵のついた転写紙を真っ白な磁器に貼り付けていきます。利用者さんはいくつかある転写紙の中から自分で好きな絵柄のものを選びました。そしていよいよ貼り付ける作業です。まず、貼り付けたい転写紙を水に浸し、シートから剥がれたら、マグカップに貼り付けていきます。これが見た目以上に細かく大変な作業で、利用者さんにはとても骨の折れる作業だったと思います。それでも、当NPOスタッフや講師の三宅さんと一緒に、皆さんそれぞれ個性あふれるマイマグカップを完成させられました。

素敵なかップができました！



沢山の方にご参加いただきました

歴史産業観光ツアー 第三弾 福山(鞆)を海から味わおうツアー 報告



観光課の後援を得た「福山(鞆)を海から味わおうツアー」を2016年11月10日(木)に実施しました。福山、名古屋、広島、三原からの参加者31名、講師をはじめとするスタッフ2名、あわせて35名のツアーでした。

今回のツアーは「義倉」からの助成金と料理・船の運航にご協力いただいた「あぶと本館」のおかげで実施出来ました。ありがとうございました。

1. 今回のツアーの趣旨

ツアーの趣旨は2点あります。ひとつは福山市、なかでも鞆は万葉の昔から潮待ちの港として栄えたところです。その瀬戸内の海を万葉人の気持ちになって、ゆったりと味わおうというものです。

もう一点は、鉄をはじめとする福山の産業の視点から味わおうというものです。鞆のまちは、「鞆鍛冶」といわれられる鉄のまちとしても有名です。ですから福山藩は舟クギや錨を他藩に輸出していました。その鞆鍛冶の人々が祀ったのが「小島神社」です。戦後になると工場が手狭になったため鉄鋼団地が形成され今に至っています。

鉄を加工する工場の一つが造船所。今回は「(大正6)年に創業した常石造船所と、鉄鋼を生産しているJFEスチール株式会社を沖合から見学しました。

また、クルージングをした備後灘は網を使う漁

業が盛んで、九州の佐賀あたりにまで鯨漁の手伝いに出かけていました。そのことが現在も福山の製網業につながっています。

また、クルージングの途中ではいくつもの海苔ひびを見ることが出来ました。



2. ツアーの概略

福山駅北口を10時定刻に出発し、バスの中でスケジュール説明と参加者それぞれの自己紹介を実施。予定ではあぶと館に到着後、磐台寺（あぶと観音）にお参りする予定でした。しかし、11月には珍しく寒気が張り出し、午後になると海が荒れる可能性があるとのことで予定変更しました。しかしお寺が縮まっていて、結果としては古人と同じく海からの参拝だけになりました。

まず大広間で、30分あまり、配付した資料をもとにして講師の藤井さんからツアーのポイント、関連事項の説明を受けました。

その後おいしいご馳走をたっぶりいただきました。参加者の皆様からは、「参加費3500円でこんなお料理がいただけ」と喜んでいただきました。

クルージングでは船長さんに色々説明をしてもらいながら、まず常石造船を海から眺めた後、田島、横島をまわって備後灘にきました。一般に鞆沖のことを燧灘と言っていますが、正確にはあのあたりは備後灘と言いますが、四国よりの沖を燧灘と言います。その後、あぶと観音を海から拝みましたが、あぶと岬と島の間からは入り口が良く分からないので口なしの瀬戸というとか。あちらこちらに立つ「のり養殖のヒビ」を眺めながら仙酔

島、鞆鉄鋼団地の沖を通って河口堰、箕沖のゴミ処理場を経てJFEスチールの原料岸壁の沖合まで。

帰りは鞆港から鞆のまちを海から味わいました。万葉人やシーボルトなどが眺めた景色とは違うでしょう。しかし、円形港湾の形といい、鞆城跡の丘、向いにそびえる沼隈半島を形作る山々は私たちをゆったりと受け止めてくれているようでした。

こうした約2時間のクルージングの後、あぶと本館に帰ってきました。その後は、あぶと本館のロビーでおみやげを買ったりコーヒーを飲んで一休みをしました。心配した海も荒れることなく、船酔いをする人もなく全員無事に帰途につくことが出来ました。

3. 感想から



- ・ 普段陸から眺めていた景色を海から味わうのも、なかなか趣が変わって良かった。
- ・ 今回のツアーで、あぶともなかなか良いところだと思った。よそから人が来たときに、「尾道にでも行こうか」ではなく、ぜひとも「あぶとに行こうよ」という風になるよう宣伝をしたい。
- ・ 今回のようなツアーを観光課でも考えてもらえるといいな、と思った。
- ・ 鞆の沖は燧灘と言っていたが、備後灘というのをはじめて知った。
- ・ 鞆に長らく住んでいるが、田島・横島をぐるっと回ったのは初めてで感慨深かった。
- ・ 海から眺めるあぶと観音もまた良かった。
- ・ 船で走ってみて、あぶとから鞆まで結構距離が

あると思った。
のりの養殖をしている風景をはじめて見た。
などバスの中での感想の概略です。その他にも皆様の感想をお待ちしています。



ツアーに参加された緒方さん撮影の写真です



「ケアの社会学」を読む会



ケアの問題をきちんとした本を読みながら考えた、と言つ声がありましたので、安川代表おすすめの上野千鶴子著、「ケアの社会学」を読んでみることにしました。

まず第1回目は、ケアを取りまく今の社会状況を安川代表にお話ししてもらいました。その後、お茶を飲みながら自己紹介をしながら交流しました。

そのなかでは、自分の母親の介護経験、自分の母親に認知症の症状が出始めた子どもの思い、脳梗塞による失語症の姉の介護での取り組み、夫の介護と死を迎えての気持ちなどが出されました。一級建築士の方は、介護が必要な家庭ではレンタルのありとあらゆる器具が提供されているが、それが果たして良いのか、という意見もありました。

以下、安川代表のおはなしの概略です。

1. はじめに

転換の時代としての21世紀最近の動きとして、イギリスのEU離脱やアメリカの大統領にトランプ氏の当選などがあつた。こうした状況は20世紀の考え方の終わりの始まりとも言えるのではないか。

・20世紀の「経済成長社会」から「定常型社会」へ移行しようとしているのではないか。

前者の社会は「開発」と成長」をキーワードとし、後者は「ゼロ成長」と「協働」を求める。

・20世紀の「福祉国家」から21世紀は「福祉社

会」

「福祉国家」⇨市場経済が生み出す格差に対峙する事後的な所得再配分システム

「福祉社会」⇨自立した個人がケアの社会化を目指したコミュニティを形成

2. 20世紀型福祉国家の危機



1) 1980年代頃から進む経済のグローバル化とIT革命のもたらす危機

・「カネ」も「モノ」も国境を越え、国家のコントロールが不能に。

・「カジノ金融」システムの世界支配…お金が瞬時に世界を駆け巡る

・日本の「ものづくり」工場が海外へ進出し、1%の富裕層と9%の貧困層の現実化

2) 福祉国家を構成してきた「家族」(性別役割分業家族)の機能不全

・合計特殊出生率の低下と人口減少により高齢者の急増と一人暮らしの高齢者の増加

・女性革命(1970年代より)の進展 ↓1979年「女子差別撤廃条約」の国連決議により働く女性の増加と女性の人権としての労働権へ

・「労働者家族」を支えてきた「日本型雇用システム」(終身雇用の崩壊、年功序列賃金、企業内福祉)が崩壊し、アメリカ型雇用が増加⇨エリートのみ正規採用、後は非正規雇用

・ケア(子育て、高齢者介護)のシステムとして機能してきた「日本型マイホーム家族」の機能不全に。夫は会社で一家を養う賃金

を稼ぎ、妻は家庭のなかで子どもを産み、育て、老親の介護というケアを行う「性別役割分業システム」が解体しはじめている。

3. 新たな社会システムへのみち―21世紀型「福祉社会」の構築

1) 経済成長を求めない「定常型社会」とコミュニティの再構築

・環境問題と途上国の開発の問題をよりどころに、経済成長や開発中心の経済学に対する批判の経済学が登場してきている。

・1972年のローマクラブで「成長の限界」と問題提起され、経済成長に変わる「定常型社会」への展望が議論されるようになった。

2) 経済社会をとらえる20世紀型経済学のパラダイムの転換

・グローバルよりもローカル、競争よりも協同、物質よりも人間関係を重視するように。

・セルジュ・ラトゥーシュ『経済成長なき社会発展は可能か』(2010年)の経済学では、次のようなことを述べている。

・あらゆる活動は地域単位(コミュニティ)で実現されること。

・再ローカリゼーションと地域に根ざした活動が重要

・地域の金は地域で使う。(大きな銀行に預けないなど)

・労働時間の削減、ゴミの削減、再利用と再ローカリゼーション

3) 「働くこと」の新たな意味の提起……「女性

革命」の拡がり

- ・ 一家を養うための「賃労働」から「自己実現としての労働」(働くことの喜び)へ
- ・ 男性も女性も、高齢者や障害者も、すべての人間に働く権利と喜びを実現すること
- ・ 1979年「女子差別撤廃条約」(日本の批准、1985年)すべての人間の権利としての労働、子ども
- の養育の社会的責任
- ・ 1991年「高齢者のための国連原則」(自立、参加、ケア、自己実現、尊厳)
- ・ 2006年「障害者の権利条約」(日本の批准、2013年)

- ・ 労働観のパラダイムチェンジ
- ・ 人は、労働を通して発達する
- ・ 人は、労働を通して人とつながる
- ・ 人は、労働の喜びを感じる権利がある
- ・ 人は、労働の成果を所有する喜びを持つ



4. 「福祉国家」から「福祉社会」へのパラダイム・チェンジが始まっている

- 1) 経済活動の場の変化…(藻谷浩介：NHK 広島取材班『里山資本主義』角川書店、2013)
- ・ グローバルな「マネー資本主義」からローカルな「里山資本主義」へ(2011年にNHK 広島により放送)
- ・ 中国地方の山地ではじまっている試みは世界経済の最先端
- 中国山地での、原価0円からの経済再生・地域復活II岡山県真庭市の里山モデル
- ・ ヨーロッパのオーストリアに見る里山資本主義の例(地域で作り出す小口の電力を地域の

中で効率的に消費し、エネルギーの自立をめざすスマートシティの例なども)

- 2) ケアの場の中心が「家族」から「コミュニティ」へ移る。子育ての場は「コミュニティケア」すなわち保育所に。高齢者のケアの場は「家族」から「施設」へ、そして「コミュニティ

- ・ 福山市鞆町の「さくらホーム」の例は高齢者施設とコミュニティの融合の試みである
- 3) 医療福祉パラダイムの登場
- 「特定病因論II医療モデル」から「複雑系としての病IIケア・モデル」へ

- ・ 感染症や急性疾患から慢性疾患や高齢者のケアへ移行。「複雑系としての病」の理解が必要
- ・ 医療政策への市民参加
- ・ ケアとしての医療福祉の充実(広井良典の論「日本の医療システムはなお『急性疾患モデル』が支配的であるように見える。また、心理面でのサポートなどは疾病の治療とは無関係な周辺的なサービスに過ぎないと考えている医療従事者も多い。…これらは…『特定病因論』的な考えの枠組みに依拠したものであり、『現代の病』についての基本的な認識の転換が求められている」(『持続可能な福祉社会—もう一つの日本構想』、ちくま新書、2006より)
- ・ 病気の社会的な要因、県境的な要因、スピリチュアリティや死生観、ターミナ

- ル・ケア、等の問題の重要性
- ・ 東洋医学や代替医療の再評価し、心理的・社会的なサポートも



5. おわりに

- 21世紀の「医療福祉」への期待
- ・ 持続可能な「福祉社会」を支える基本理念と基本システムを創出することが課題である。それは自己実現としての労働に支えられた「コミュニティ」の創出と共にある。

編集後記



つい先日、小学1年生の息子が学校でマラソン大会の練習をして、男子55人中25番だったと、全然悔しくなさそうに言ったので、かなり怒ってしまいました。順位はともかくとして、あんたは悔しくないのかと。

彼は周りがどうであれ、縄跳びも鉄棒もできなくて、ずーっとこのまま競争心がなかったらどうしようかと、私は不安になって色々相談していたら、父から「〇は大物だよ。小さいことに拘らず我が道をいくような、大器晩成型だよ。いずれできるようになるからそんなことでイライラしない方がいい」と言われ、かなり孫可愛さのひいき目ではありますが、確かに、マラソン大会がどうしても、縄跳びも鉄棒もできなくても将来にはたいした影響はないと自分に言い聞かせなが

らも、今日のマラソンの練習の順位が
気になるまだまだちっほけな母親です。

それでは、少し早いですが、

皆さま良いお年を(羽)

